第6学年

教科	課題分析	授業改善策
国語	(1)知識や技能の個人差が大きい。全体的に語彙量を増やしていくことが 課題である。 (2)自己の考えを構成して文章に表し、思いを相手に伝わるように表現す ることが苦手である。	(1)文書の読み取りや読書指導を充実させ、語彙を増やすようにする。また、話す、書く活動時によりふさわしい言葉を使うように意識させる。 (2)作文指導を通して、目的や相手意識を明確にして、自分の思いや考えを伝えることを意識した指導をする。また、スピーチやディスカッションを計画的に取り入れ、共通のテーマを設定して話し合う活動を取り入れる。
社会	(1) 我が国の政治の働きや歴史について、知識の定着が不足していたり、暗記することばかりに意識が向いていたりする傾向がある。 (2) 資料から分かることだけを伝えるだけに留まり、それらを関連付けて自分の考えを導き出すまでには至っていない。	(1) 現在の社会情勢や身近な事例を挙げ、実生活と結び付けながら学べるように指導することで確かな知識につなげていく。 (2) 提示する資料を精査し、そこから読み取ったことを伝え合うとともに、考えをまとめ、解決していくことで、自分の考えを深められるように指導する。
算数	(1)計算の演算処理は得意としている子供が多い反面、図形の性質についての理解に課題が見られる。 (2)数量の関係に着目して考えたり、式の意味を読み取ったりする力に二極化の傾向が見られる。	(1)既習の知識・技能を活用している子供の考えや発言を価値付けながら問題に取り組ませ、基礎・基本の定着を図る。 (2)立式だけの指導で終わらせてしまうことのないように、数直線や図を用いて式の意味を説明する過程に重点を置いて指導する。
理科	(1)ほとんどの子供は、観察・実験には積極的に取り組んでいる。一方で、何をポイントに観察するのか、どんな疑問を解決するために実験を行っているのかが曖昧な児童も見られる。 (2)観察してわかったことや実験の結果から考えられることを自分の言葉でうまくまとめられない子供が見られる。 (3)学習したことが身近な生活のどんな場面と関わりがあるのかを意識することが少ない。	(1)何のための観察、実験なのか、問題を明確に意識できる事象を提示していく。(2)結果と考察、結論の意味をしつかり理解させる。結果は表やグラフなどの描画や記号で表し、考察は結果から分かる共通性や規則性を見い出すこと、そして、結論は最終的に得られた判断として短い言葉で表現することなど、かき方についても例示していく。(3)その学習内容が、生活のどの場面でどのように生かされるかを、導入や学習の終わりなどに具体的に提示するなど、意識付けをさせる。
音楽	(1)合奏では音色や響きに気を付けて演奏する子供が多いが、合唱では、 歌声が小さい子供も見受けられる。リコーダーでは、個別指導が必要な 子供もみられる。	(1)曲の一部を取り出し発声練習するなど、常時活動の中で、無理のなく 発声のポイントを指導していく。器楽では運指表を提示したり、予め準 備練習の中で難しい運指の練習を行ったりする。

	(2)鑑賞では、曲の特徴について様々な気付きがあるが、音楽的根拠を もってその曲や演奏のよさなどを見出す子供がやや少ない。 (3)合奏など意欲的に取り組む子供が多い。また、全体的には友達の歌声 を聴き、生き生きとした声で歌うことができるが弱々しくなってしまう子供 もいる。	(2)表現と鑑賞を相互に関連させながら学習していくようにする。また、聴くときのめあてを明確に伝え、めあてに即したワークシートを作成し、感想を言語化しやすいようにしていく。 (3)拡大楽譜や教具の工夫をし、声の響かせ方やことばの言い方などの発声練習を常時取り入れていく。卒業行事での発表という目標をもち、意欲的に取り組めるようにしていく。
図画工作	(1)材料の特質を生かした作品づくりができる子供は多いが、用具の扱いが十分でないことが多い。 (2)作品づくりには抵抗なく様々な発想をもって取り組める子供が多いが、他者の作品から自分の見方を深めるところに課題のある子供が多い。 (3)課題に意欲的に取り組んでいるが、作品から感じたよさを相手に伝えるなど、作品を通して周囲との主体的な関わりをもつところまでは課題が見られる。	(1)用具を大切に扱うように指導を徹底し、用具を正しく安全に扱うことができるようにする。(2)具体的に視点を示し、鑑賞の体験を多くさせることで、作品の見方や自分の作品への生かし方を学ばせる。(3)作品の感想を交流する活動を多く設定し、お互いの作品のよさを伝え合えるところまで鑑賞の活動を進める。
家庭	(1) 日常生活での衣食住に関する知識はあるが、生活体験の多少により個人差が大きく技能面の低下も見られる。 (2)日常生活から問いを見出し課題を設定することはできるが、解決方法を考えたり、表現したりする力を身に付けるまで至らない様子が見られる。 (3) 家庭生活を大切にしているが、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する態度に課題がある。	(1) 基本的な技能を確実に身に付けるための指導時間を十分に確保する。視聴覚機器を活用し、理解を深める。 (2) めあてをもち、計画的に学習を進められるようにワークシートを活用する。また、課題解決においては個人だけでなく、グループで学び合い、教え合いをする場を設定する。 (3) 学習したことを家庭で工夫し実践できるよう課題を設定し、日常生活につなげていけるようにする。
体育	(1)知識・技能の面では、二極化が見られる。運動を日常的に行っている 子供にも継続的に運動に取り組ませる必要がある。 (2)運動を楽しもうとする子供は多いが、与えられた運動しか行わない側面 も見られる。そのため、運動の種類が広がらず、日常化にもつながって いかない。	(1)校庭を使用できるようになることを生かし、運動の特性や楽しさを十分味わえるような学習過程を計画し、指導方法の工夫を行う。また、めあてをのもたせ方を工夫したり、教え合いの場をもたせたりする。 (2)授業の準備運動などで、様々な運動を経験させ、休み時間や放課後等にも、遊びを通して運動に親しむ心情を育てる。
外国語	(1)学校外で学習している子供と、そうでない子供で外国語でのコミュニケーションカに差が見られる。 (2)学習に積極的に取り組んでいる子供は学習した内容を使い、相手に外国語で伝えることができているが、苦手な子供との個人差が激しい。文字や写真を見て正しく発音できる子供は少ない。	(1)毎回の学習を始める前に前回までの復習を取り入れ、学習内容の定着を図ることができるようにする。モジュールを効果的に活用し、書く学習にも慣れ親しむことができるよう工夫する。 (2)ICTを効果的に使い、新出単語を言えることができるように繰り返し復習していく。